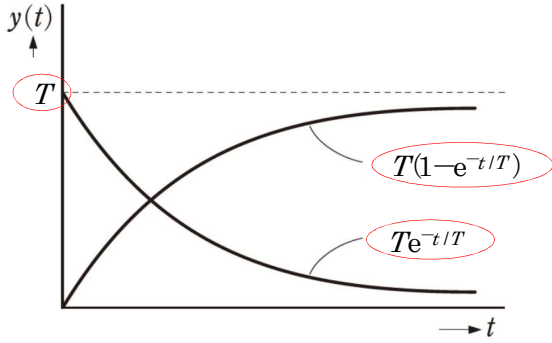
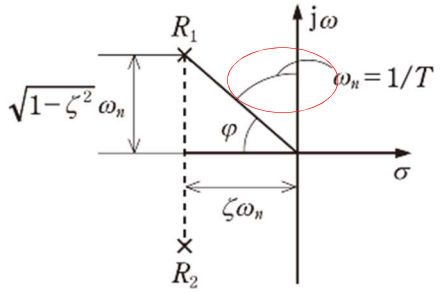
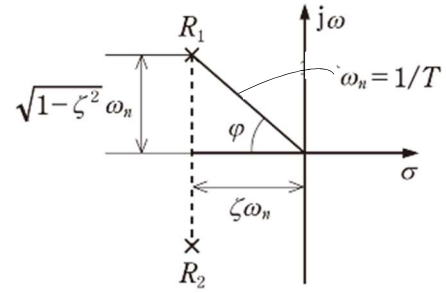


■正誤表「電験二種 計算の攻略」(第1版第3刷用)

頁	該当箇所	誤	正
p.43	11 行目	$i_b = -(i_a + i_b)$	$i_b = -(i_a + i_c)$
p.49	右段の(5・15)式	$i = \frac{E}{\sqrt{LC}} \sin \frac{t}{\sqrt{LC}} [\text{A}]$	$i = \frac{E}{\sqrt{L/C}} \sin \frac{t}{\sqrt{LC}} [\text{A}]$
p.51	コラムの(6)式	$q = CE e^{-\alpha} (A_1 \cos \beta t + A_2 \sin \beta t)$	$q = \textcircled{CE} + CE e^{-\alpha} (A_1 \cos \beta t + A_2 \sin \beta t)$
p.76	演習問題 7.3 の 2 行目 および図中 (2 箇所)	v_0	v
p.92	左段の下から 7 行目	$500[\text{min}^{-1}] \geq 585[\text{min}^{-1}]$ (可)	$500[\text{min}^{-1}] < 585[\text{min}^{-1}]$ (可)
p.101	左段・②の 5 行目	…(2・10)式の成分のほか,	…(2・11)式の成分のほか,
	図 2・4 供給空気	$(\lambda \textcircled{+} 1)A_0$	$(\lambda - 1)A_0$
p.110	図 3・2 左側の電流	i_c	$-i_c$
p.122	左段・下から 4 行目	$\%X_0 = \%X_3 + \frac{(\%X_{s1} + \%X_1) + (\%X_{s2} + \%X_2)}{(\%X_{s1} + \%X_1) + (\%X_{s2} + \%X_2)}$	$\%X_0 = \%X_3 + \frac{(\%X_{s1} + \%X_1) \times (\%X_{s2} + \%X_2)}{(\%X_{s1} + \%X_1) + (\%X_{s2} + \%X_2)}$
p.145	(5)式の右辺第 4 項	$\frac{8D_{\textcircled{B}}^2}{3(6S/5)}$	$\frac{8D_C^2}{3(6S/5)}$
p.149	左段下から 5 行目	$i_r = \sqrt{\textcircled{I} - \textcircled{I}_q} = \dots$	$i_r = \sqrt{I^2 - I_q^2} = \dots$
p.149	左段下から 1 行目	$P = \sqrt{3}VI_r = \dots \div 233[\text{W}]$	$P = \sqrt{3}VI_r = \dots \div 223[\text{W}]$
p.164	演習問題 6.7 の解答下 から 2 行目	直列コンデンサのオーム値 $x_{\textcircled{C}}$ は,	直列コンデンサのオーム値 x は,
p.181	右段・下から 4 行目	$i_c = j\omega C_c (\dot{E}_{\textcircled{b}} - \dot{V}_e) = \dots$	$i_c = j\omega C_c (\dot{E}_c - \dot{V}_e) = \dots$
p.185	図 7・6 中	$R_n = \frac{n^2 R_{\textcircled{0}}}{9}$ (一次中性点抵抗)	$R_n = \frac{n^2 R}{9}$ (一次中性点抵抗)
p.240	左段・下から 4 行目	内分巻は主に電動機に用いられ, 外分巻は主に発電機に用いられる。	内分巻は主に発電機に用いられ, 外分巻は主に電動機に用いられる。
p.260	演習問題 2.5 の解答 解図 1	$\dot{E}_0$	$\dot{V}_0$
p.260	左段 8 行目	$\varepsilon = \frac{V_0 - V}{V} \times 100 \dots$	$\varepsilon = \frac{V_0 - V_n}{V_n} \times 100 \dots$
p.260	演習問題 2.5 の解答 解図 2	$\dot{E}_0$ $\dot{V}$	$\dot{V}_0$ $\dot{V}_n$
p.260	右段 7 行目, 10 行目	$\dot{E}_0$	$\dot{V}_0$
p.277	右段解説下から 1 行目	$\textcircled{R}_e$ は温度上昇に逆比例する。	p_e は温度上昇に逆比例する。
p.282	(6) 式	$\div 0.9772, 0.2808$	$\div 0.9972, 0.2808$
p.282	解図	100	99.72
p.363	図 2 中の原点近く	$\omega = 0$	$\omega = \infty$
p.376	左段・上から 7 行目以 降および解図を右記 に差替え ※赤の下線と囲いが 変更箇所	(4)式の未定係数を求めると, $A = \underline{T}$ $B = -\underline{T^2}$ である。よって, 過渡応答 $y(\theta)$ は, 次式で示せる。 状況を解図に示す。 $y(t) = \mathcal{L}^{-1}\{Y(s)\} = \mathcal{L}^{-1}\left\{\frac{T}{s} - \frac{\underline{T^2}}{Ts + 1}\right\} = \underline{\mathcal{L}^{-1}\left\{\frac{T}{s}\right\}} - \mathcal{L}^{-1}\left\{\frac{\underline{T}}{s + (1/T)}\right\} = \underline{T(1 - e^{-t/T})}$	

		 解図	
p.388	演習問題 6.23 (4)と(5)の文中 (2箇所)	上記 (2)	上記 (3)
p.391	図 6-20 中 ω_n を表す位置	 図6-20 二次標準形極配置	 図6-20 二次標準形極配置